令和４年度　第１回　人生支援計画策定委員会　議事録

■日　時：令和４年８月 19 日（金）　14:00～15:45
■場　所：のいちふれあいセンター　第１，２研修室
■出席者：27 名（策定委員 10 名、行政 17 名[市長含む]）
■傍　聴：１名

１．開会
　市長挨拶

２．議題
①Ｒ３年度 実績報告等について　ー各部会事務局長から報告【資料２-1～3】、【資料３】ー
②各部会の報告について　ー各部会長から報告【資料４-1～3】ー

＜①②意見交換＞

（委員）
　２つ、質問がある。１つ目は資料３の No21,22 の小学校、中学校の不登校児童生徒の発生率のところで、評価がＣになっていて厳しい実態があるのかなと思っている。香南市ならではのやり方ということで森田村塾の紹介があったが、そこに通っている児童生徒は、不登校という扱いでやっているのか。それとも独自でカウントしているのか。

（学校教育課長）
　森田村塾に通うのは不登校が絶対条件にはなっていない。不登校というカウントについては、年間で 30 日以上欠席という国等へ報告する数字はあるが、その規定に沿っていなくても、ちょっと学校に来にくくなっているという状況があって、本人、家庭が希望すれば、対象ということになる。ただ、森田村塾に繋がっている実態としては、やはり不登校にカウントされるレベルの日数状態にある。
　それから１つ、先ほどの数値のＣ評価について、少し補足したい。この KPI 評価を作った時の実数に対してそれが改善された数字を目標値として設定しているので結果的にＣという状態になっている。ただ、香南市がＣであるかというと実は少し違うところがあって、例えば、Ｎｏ21 の不登校児童の発生率の小学校の数字で言うと、県の令和元年度の数字が 1.03%で、令和２年度が 1.18%なので、香南市が飛び抜けてというわけではない。中学校の方も、県と似た状況になっている。

（委員）
　どうしても KPI を作ってしまうとそれが１人歩きしてしまうところもあるが、そこは上手な見せ方含め、この計画が終わった後もいろいろ常時きちんとやっているということを示しながらやっていくといいのかなと思った。
　もう１つは、資料３の No45 地域おこし協力隊の任期満了後の定住者数について、全員が定

住したということは評価したい。地域おこし協力隊の方で、定住しているということはこの町を気に入って残ったと、仕事もあったということだと思うので、そういった方たちに学校で話してもらう場を設定してもいいのでは。また、香南市で、IT や一次産業で活躍している方もたくさんいるので、そういった方の話も児童生徒への社会教育のあり方として検討してもらえたらと思う。質問としては、No18、19 の将来の夢を持つ小学生、中学校の割合について、特段香南市が低いのかどうかということはわかるのか。

（学校教育課長）

この調査は１学期に行われるものなので、令和４年度の数字が既に出ている。令和４年度で、小学校の方の将来の夢をもつ割合は、香南市が、84.1％で県平均は 78.1％。中学校の香南市の令和４年度が 75.7％で県平均が 71.3％。ということで、県平均と比較して香南市の子供たちが特段夢を持ててないといったことではないと評価できると思う。

（委員）

No33 結婚新生活支援事業のところで、令和２年から３年で３倍以上の実績、評価についてもＡで、良い取り組みができているのであろうと思う。

そこで、こうして大きく実績をあげた要因や取り組みの内容を聞きたい。また、加算の条件に「夫婦いずれかの実家から５キロ以内または同一小学校区にある場合」とあるが、この条件の理由を教えてほしい。

（地域支援課長）

まず１点目、件数が昨年度に比べて大きく伸びたことに関しては、やはり周知、情報発信というところ。転入者の方にアンケート調査を窓口で行っており、転入の理由が結婚になっている方には担当の方から積極的にこの制度周知に努めたため、大きく伸びていると感じている。

それと２点目の内容については、この事業は、国の少子化対策というところが大きい。若い方が結婚に踏み切れない理由として経済的な問題が大きくあるので若い世代、３９歳以下の方でご夫婦の所得が４００万円未満の新婚世帯に、新しい住居を構えるための引っ越し費用や、アパート等の賃貸住宅の家賃、香南市へ家を建てるときにも使えるような補助金になっている。それと、加算の部分については、高知県独自の取り組み。高知県は人口減少に大変悩んでいるので、子どもたちが帰ってきて親の近くで近居し、子育て支援をしてもらうというところに県としても着目している。香南市としても、こういった要件をつけて加算をして後押しをしたいと取り組んできた。

（委員）

質問ではないが、コロナの影響でほとんどの事業が中止、規模縮小している。民生委員の活動は対面活動が原則なので、ほとんどできていない。来年度に向けての取り組みとしてどんなことをしたらいいか。高齢者については出歩かない、閉じこもりになっているという家庭もある。

（委員）
　コロナ禍の中でも取り組みに対していろいろ工夫していると思った。香南ケーブルテレビとして市民のために、市役所の各課とも連携をとりながら、より一層情報の見せ方も考え、工夫しながら情報発信をしていかないといけないなと思った。

（委員）
　私から２点、１点目はお試し住宅に関して、当初から香我美町の一軒だけと思うが、野市町にも考えているということで、都会の方は歩いて行ける距離にスーパーやコンビニ、学校があって当たり前の生活の方が多く、いきなりすごく田舎となるとかけ離れすぎてて慣れるのに時間がかかると思うので野市町にお試し住宅があれば利用しやすいと思った。
　もう１点は空き家バンクについて、「空き家になる前バンク」が必要じゃないかというところがあったが、空き家になってしまうと修理する部分が増えたり貸し出すということにハードルが上がったりすると思うので、高齢者の子ども世代にあたる 30～50 代くらいの方たち向けに広く周知してもらい、親が住まなくなった後にどうしていくか、早い段階で検討してもらえたら空き家バンクにつながっていくのではないか。

（委員）
　３年続けて町民運動会、敬老会、夏祭り等が中止になりそうな中で、だんだんに聞こえてくるのが、「3 年できなかったら、もうなかなか再開する馬力がない」ということ。そういう話が聞こえ始めてきた中で、自治会・協議会活動をいい方向に持っていくのには、どのようにしていったらいいのか、自治会役員のメンバーとして、コミュニティをどうやって再生していくのか、というのが困っているところ。解決策は何かあるか。

（委員長）
　これはもう全国的に同じようなことになっている。地区運動会やお祭りも、２年間開かれないと次に同じ形で開くことができなくなっている。全く違う形で開かれるところもある。このコロナ禍でも新しいお祭りをということで、尼崎市は、兵庫県下の高校生が集まって、かき氷甲子園のようなイベントを開催している。こういうところでは若い力が必要になってくるのかなとお話を聞いて思った。

（地域支援課長）
　委員がおっしゃるように、その部分はまちづくりを進める地域支援課としても、心配しているところ。新しい形、別の形というのを考えていってもらいたいと伝えている。今までと同じような方法で、というやり方は非常に困難な状況になっている。新しい力、若い力というような人材的なものも再開・維持をしていく上ですごく重要なものになる。
　少しずつだが、再開している地域もある。自分たちでできる形をということで、いろいろ工夫してまちづくり協議会・自治会でやってくれている。そういった事例を、２ヵ月に１回各地域の協議会長が集まる「まちづくり評議会」で情報交換・情報共有もしている。また、地区担当職員が香南市にはいるので、そういった行政のアイデア、情報も参考にしてもらえたらと思

う。

宣伝になるが、10 月１日に高知大学の大槻教授にご支援をいただき、”持続可能なまちづくり”をテーマに「まちづくりセミナー」を開催するので、ぜひ、おいでていただきたい。

（委員長）

もう１つ余談だが、ジャパンコーヒーフェスティバルというイベントにうちの大学も出店する。自主学習ということで連れて行った町の水を使って、その町の宣伝をしながら、SDGs ということで今回紹介させてもらう。このように大学生もどんどん今までなかった形で加わっているので、いろんな開催の形があると思う。

なぜこの大学生の話をしたかというと、過去に、のいち動物公園のアンケート調査をしたが、それを全部工科大の学生さん延べ 30 名ほどにやってもらった。その結果どういうことが起こったかというと、実は大学生 30 名はのいち動物公園に来たことがなかった。それが、アンケート調査に関わることでのいち動物公園及び香南市に興味を持ってくれて、来る回数、関わる回数が非常に増えたというのが、結果。やはり、いろんな形で関わりを見つけてあげる、地域を好きになってもらうということが、若い人を巻き込む１つの手ではないかと思っている。

③今後の取り組み方について　－市長から報告【資料５】－

（市長）

それぞれの部会でもお話をしたが、平成 27 年度に人生をトータルでサポートすることを目標に策定されたこの人生支援計画は、平成 30 年度からは、３つの部会を立ち上げて、ステージごとに必要な人生支援施策について協議を進めてきた

この１月から新体制となり、様々な事業を検証、見直しをする中で、人生支援計画についても、幹事会等含めて協議・検証してきた中で、計画を６年間進めてよかった点、問題点が見えてきたところである。その結果、人生支援計画の視点を持った取り組み方が定着してきており、市役所というのは、人生支援計画がなくても、市民への人生支援をするのが当たり前であるし、それがそもそもの市役所のあり方だと思う。

人生支援計画を終了することによって、市民の皆様にわかりやすく支援策を提供する場や、市民の皆様のご意見をお聞きする場がなくなるのではないかという不安を感じていると思うが、そこは今まで以上に、それぞれの個別計画を磨き上げていく。個別計画においてもそれぞれ委員がいて、そこでさまざまな声を聞いているので、取り組み内容の見える化、市民の皆様の声の見える化というものを、しっかりと進めていきたいと思っている。

これからも住んでよかったと思っていただける香南市を目指すことについては全く変わらないし、先ほど申したとおり、市民の皆様の人生を支援することが、市役所本来の通常の当たり前の職務なので、そこは変わらず進めていきたいと考えている。

さらにそれにプラスして、具体的に市として重点的に取り組むべき施策や、複数の課、複数の世代に跨る問題について、より実行型で、効果的、効率的に取り組む仕組みとして、プロジェクトチーム等、さまざまな会議等を検討しているところである。

いまだ解決に至ってないこともたくさんあると思うが、そういったことをより具体的に、解決を見据えた形の取り組みができればと思っている。それをやるための一つのステップが今回

の人生支援計画が終わるということだと信じているし、新たな施策に取り組んでいきたいと考えているので、今後とも、さまざまな形、お立場でのご協力をお願いしたい。

＜意見交換＞

（委員）

ファシリテーターの方は日本のみならず、世界のいろんなところを見てきており、そういった視点での香南市の良さというのがわかったし、また個人的にもいろいろ野山を駆け回っているので、香南市にはまだポテンシャルがかなりあると思う。これからどのようにしていくのか、期待している。トップダウンだとあれかもしれないがリーダーシップは絶対必要だと思う。これからも一市民として、何らかの形で、香南市のためにやっていきたいと思っている。

（委員長）

九州の方で今、農家民泊がどんどん増えているがなぜかというと、普通の宿泊業旅館業になると非常にハードルが高いが、農家民泊は農林水産省の管轄で、ある意味緩い。そういうことで九州では農家民泊に力を入れている。

香南市には、非常に魅力的なことがたくさんある。外からいつも香南市の魅力を見せていただきありがとうございました。

（委員）

私も香南市に住んでもう 30 年以上になるが、香南市の姿は本当に驚くぐらい大きく変わってきた。香南市は高知市のベッドタウンとして、今でも住宅の建築がどんどん進んでいて、不況とかそういうものを感じないような、東部の中核都市として今大きく発展していると感じている。地域が活性化してきた背景には、やはり行政的な取り組みもあるし、地理的条件の良さもあろうかと思う。そうは言ってもやはり基本的に人間が作る社会なので、どういう社会を作っていくかという人間の取り組み、そして住民の参加する姿勢、そういったものが非常に重要ではないかと思っている。

日本のトップを誇る歯科器材メーカーのヤマキンが、７月１日に本社を香南市に移転した。全国的に有名な会社がなぜ香南市に来たのか、新聞等の記事を見ると、やはり行政の取り組み、人材の確保ができる、それから特に研究面の条件がいい、例えば香南市にはポリテクカレッジがあって、ヤマキンと連携している。非常に研究条件が良いという話を新聞等に書いていた。こういう企業が本社を香南市に移すということ自体が、香南市の一つの特質であると私は考えている。そういった企業誘致がなぜできたのか、そしてどういう活動をここで求めているのかというようなものを十分掘り起こして、その条件整備をしていくことが、香南市の発展にも結びつくし、移住政策等にとっても非常に重要な役割になってくると思う。

（委員長）

地域活性化が成功している地域は、地域の人を取り残さずに一緒に成長しているというところが大きい。地域の方々をとり残して活性化をしているところはやはり失敗をしていて、定着しているところは地域と一緒にということで、「地域創生」ではなく、「地域再創生」という言

葉を使っている。つまり、「地域創生」というのは地域に新しく何かをしてしまうが、「地域再創生」だと、もともとあったものをもう１回使い直そうよというところなので、決して地元の人を置いていかないというのがある。だから「地域再創生」という言葉が今出てきている。

ご存知のように、淡路島に日本中の企業がたくさんやって来て、観光客も住んでいる方も非常に増えているが、そのきっかけとなったものは何かといろんな方に聞いたところ、夕日と食材という答えだった。それなら香南市もいけるのではないか、と淡路島の成功事例を見て思った。夕日と食材というのは地元の淡路島の方は、気がついてなかったところ。だから住んでいる地元の人達はその良さに気がついてないけれども、外から見たら非常に魅力的なところがたくさんあるという一つの例ではないかと思った。

（委員）

先ほど市長から、今後の取り組みということでお話をいただいた。人生支援計画に勝るくらいのものを考えていきたいということなので、大いに期待したいと思う。

人生支援計画の中では、部署を超えた課題がたくさん出て、みんなで協議して新しい事業もできたので、このような雰囲気というか手法はぜひ、今後も取り入れてもらいたいし、横断的に各課がいろんなことに取り組めるということもあったので、そういった手法を残してもらいたいと思う。

それと私は社会福祉協議会の方に関係しているので行政ができない部分についての事業をたくさんやっている。例えば先ほど委員から高齢者の方が出にくくなって困っているという話もあったが、この２、３年コロナで高齢者が楽しみにしている遠足や敬老会等さまざまなものが中止になったり規模縮小になったりしたが、やっと遠くに出かけることもできるようになった。そういったときに申し込みをお断りしないといけないほどたくさんの方が申し込みをしてくれる。そして一緒に行くと本当にもう皆さん顔がいきいきして、久しぶりに会えたと喜んでいて人と人との交流の大切さを身に染みて感じた。

それから、不登校の話になったが、社協のほうでもそういった方たちが来られる場を準備していて、何名かの方が定期的に来てくれている。やはり自分の居場所があるといきいきして一生懸命勉強したり好きなことをやったりできるので、そういった場を提供していくということは本当に大切なことだと思う。今後も進めていきたいと思うので行政もそういった方を見つけたら連れてきてほしい。自分たちはそういった人を発見するのも難しい、それが今の時代。そういった部分で行政とタイアップして支援していきたいと思う

（委員長）

なかなか外出できない高齢者という話があったが、地域の公民館等に少人数で集まってオンラインで 100 歳体操をしているところがある。そういう工夫は全国でされている。

（委員）

いろんな支援策を見える化していくということだが、アルバイトに来ている大学生に聞くと、みんなテレビを持っておらず見たいものをインターネットで見ると言っていて、私も含め、見たいもの、知りたいものを調べる・見る時代なのかなと思う。